



## 菊の節句

令和二年九月十三日 大中臣正比呂

九月九日は重陽の節句である。

旧暦の九月九日は、今で云えば十月中旬頃であろうか。菊の季節であることから、菊の節句と呼ばれている。菊の節句には「栗ご飯」を炊き、菊の花弁を何枚か盃に落とした、「菊酒」を飲む。傍らには、菊花を水盤に浮かべて愛でるのである。中々の季節感である。

昔から、菊は長寿を祝う花である。

江戸時代の歌舞伎も長寿を題材にした「菊」由来の演目が掛けられていた。

「乱菊枕慈童」は、宝暦八年（一七五八）七月に江戸市村座で初演されている。文献によれば、この曲舞いは、狂言「星合源氏車」の中の曲であるらしい。

星合とは、年に一度、織姫と彦星が逢う七夕の古事を指す。その当時の七月公演の歌舞伎の脚本が現存している。筆者は歌舞伎に浅学であるので、星合源氏車が引き合いに出された由来は知らぬ。「源氏車」とは平安貴族が乗っていた「御所車」のことである。美しい御所車は、後世に車の部分がデザイン化されたのであろう。八本の矢が輪状に配置された法輪の模様として、脚本の表紙に記されている。

デザインは、浮世絵の歌舞伎役者絵に描かれていると云うので、早速、上野の東京都美術館の特別展に行つて来た。四百五十点にも及ぶ版画は、圧巻である。鑑賞に三時間はかかり、疲れた。版画には、演中の役者の衣装に源氏車が描かれていたので、デザインは歌舞伎役者の家系が役柄かで、定番となっているのであろう。歌舞伎の鑑賞については、段々と筆者に知識が付けば、諸人の趣に供してみたい。

歌舞伎は役者の舞台演技と舞台音楽および舞台装置などから成る。

「乱菊枕慈童」は、別掲の脚本（名古屋大学所蔵）に、当時の事情が伺えて興味深い。歌舞伎については、伝統芸能の家元の他にも、学界、市井に多くの先人と研究者がおられることだろう。筆者は、単に出くわした脚本の表紙を鑑賞しているに過ぎないが、それでも行中、図中から様々な人々の思いが湧いて来るので、それを解読するのは面白いものである。脚本表紙の絵中の文字は、大した字数ではないのだが、「くずし字」で書かれているので、初学の筆者には判読に苦労した。尚、内容において間違いがあれば、浅学の徒にご教示を給りたいものである。

脚本原典である「乱菊枕慈童」の作詞者は未詳だが、この作曲者は杵屋忠次郎である。本脚本である、「乱菊枕慈童」の刷物には、ストーリーを説明して唄う「長唄」担当（唄い方）が三人。その演奏曲を「三弦」で演奏する担当（三味線方）が三人とある。

リードヴォーカルを「立唄」と呼び、リード三味線を「立三味線」という。「立」とは、二名以上の唄い方が並んで演唱する際の主席の者、また二名以上の三味線方が並んで演奏する際の、首席の者である。第二席の者は「脇」と云う。役者の場合のそれは、諸兄のご存知の通り、「立役者」であり、一座の中心となる重要な役目の者、あるいは、重要な役を演じる者のことである。その他は「脇役者」という如くである。

三味線の演奏会では、立三味線の糸が切れたり、調弦の必要が生じたりして、糸巻の棒を左手で調整しないといけないような場合は、その間は演奏が出来ないのだから、脇三味線が代役をすることになっている。舞台や演奏はリアルタイムに進

むわけだから、演奏の中断は許されない。糸の掛け替えを舞台でやるわけにはいかないのだから、立三味線の者だけは三味線自体を取り換えることが許されている。

奏者の後方より、あらかじめ用意してある、替の三味線がサツと渡される。脇三味線の糸が切れた場合はどうか？ 放つとらかしたそうなの。 「立」に問題がないのだから、「脇」は、已む無く切れたままの三味線で演奏を続けるのだから。三人以上の三味線方が並ぶ場合は、立三味線以外の者は連三味線と呼ばれる。主役の立三味線に合わせ、かつ、立三味線に不測の事態が生じれば、脇三味線、連三味線で補う。

この脚本（正本）には版権があるらしい。表紙右下段には清水次兵衛という名がある。芝神明前三島町と記載があり、現在の港区芝大門にある「芝大神宮」の門前に出版店を構えていたようだ。筆者の居所から歩いて行ける、下町の商店街の先にあり、今の歌舞伎座まで徒歩三十分の距離である。何やら親しみが出てきた。

さて、「乱菊枕慈童」は、慈童であるからして、子役が演じたに違いない。市村座の中村初五郎が勤めたのである。元々、この演目は人形浄瑠璃の名人と云われる藤井小八郎が慈童の人形を操っていた。だから、それに扮する役を市村亀蔵が勤めるという訳である。

菊の節句の話から随分と横道に逸れてしまったが、菊由来のこの脚本にはどんな内容が書かれているのだろうか。「乱菊枕慈童」とはどういう戯曲なのか、次回回は、核心に迫ってみよう。

続く



長唄（唄い方） 三弦（三味線方） 板元（出版元）  
 板田仙四郎 杵屋忠次郎 芝神明前三島町  
 中村兵衛 綿屋惣次 清水次兵衛  
 本村源次郎 西川典蔵  
 星合源氏車 第三段目  
 市村座 中村初五郎（子役）  
 乱菊枕慈童  
 藤井小八郎（人形遣いの名人）  
 市村亀蔵

上下巻

